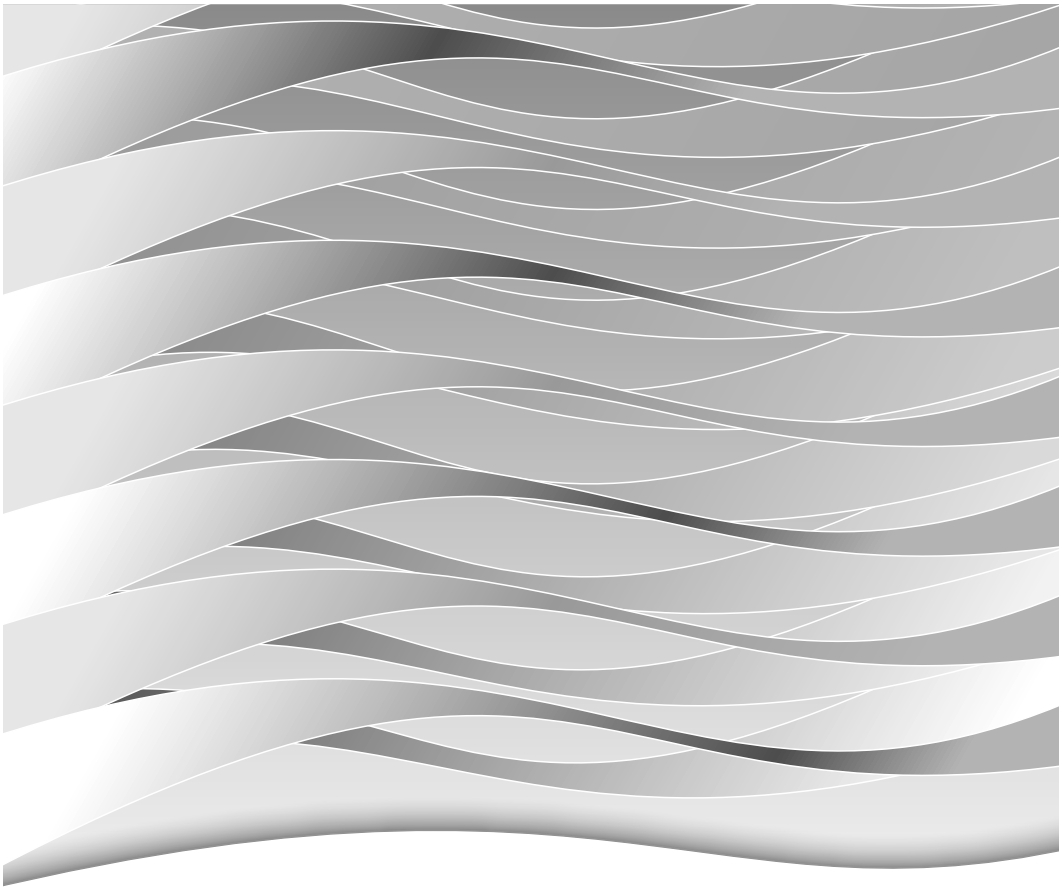
介護過程

柊崎京子
編著



建帛社
KENPAKUSHA

【執筆分担】

第１章 １：柊崎京子
第１章 ２①：松永美輝恵・豊田美絵
第１章 ２②・③：柊崎京子
第１章 ２④：品川智則・倉持有希子
第１章 ３・４：吉賀成子・鈴木聖子
第１章 ５：小林結美・野原康弘
第１章 ６：藤江慎二・倉持有希子
第２・３章：柊崎京子
第４章 １：宮本佳子・柊崎京子
第４章 ２～４：柊崎京子
第５章：松永美輝恵・松橋朋子
第６章 １：柊崎京子
第６章 ２：楠永敏惠
付章 事例１：梅本旬子
付章 事例２：倉持有希子
付章 事例３：楠永敏惠
付章 事例４：宮内寿彦

まえがき

「介護過程」は，1988年の介護福祉士養成開始時のカリキュラム（指定基準）にはありませんでしたが，現在は150時間（養成施設ルート）の教育内容が指定されています。そして，2019年度より順次導入されたカリキュラムでは，「介護過程の実践力の向上」のために教育内容の充実が図られました。

介護福祉士養成が開始された当時，特別養護老人ホームの居室は4人部屋以上が多かったのですが，現在最も多いのは個室です。このように実践の現場は変化していますが，介護福祉士の養成教育も法律や制度，実践の考え方や実践の蓄積などの影響を受けて変化してきました。これからも変化していくでしょう。また，多様な実践があるのと同じように，介護過程に対する考え方も多様です。本書では，介護過程の定義やアセスメントのための考え方，アセスメントシートなどを提示していますが，多くの考え方の中のひとつにすぎません。

介護過程の学習における共通したねらいは，介護実践における思考過程の訓練や，根拠ある実践方法を学ぶことです。そのため，本書は下記のような目的で作成されました。

① 第1章は，介護過程を学ぶための準備にあたります。既に他科目で学んだ内容もあると思いますが，演習を通して学ぶ内容となっています。

第2・3章は，介護過程展開の全体に関連します。介護過程を学ぶための基礎として，ケアマネジメントと介護過程の関係，介護過程の定義と意義，ICFの生活機能モデルと介護過程，介護過程展開の視点について述べています。

第4章は「介護過程の展開」についての具体的な説明です。

第5章は前章までの学びを踏まえ，事例による介護過程の学習です。

そして，さらなる学びに向けて，第6章は「介護過程の展開を事例研究としてまとめる」，「介護過程に活用できる理論・モデル」について説明しました。

付章には介護過程の演習事例を記載し，巻末には本書で使用した情報収集シートなどを掲載しました。

② 介護を要する利用者は高齢者や障害者，子どもなど多様です。そのため，同じ情報収集シートを用いることには限界があります。限界はあるものの，本書の情報収集シートは，生活の主体者は利用者自身であること，「本人の実際」と「実際になされている支援」の事実を把握する，情報源の区別ができるように記号で示すなどを踏まえて作成しました。

③ アセスメントシートは，介護過程に対する一定の理解を達成できるためと，根拠を踏まえた実践とするために，思考してほしい内容や思考過程の流れを踏まえて作成

しました。また，介護過程を展開するときのひとつの考え方として，「介護過程展開の視点」（第３章）を提示しました。

④　巻末に掲載した情報収集シート，アセスメントシートなどは，建帛社のホームページからアクセスできます。自由に改変して使用してください。アセスメントシートはあえて１枚に収まるように作成しましたが，ページ数を増やすこと，項目に工夫を加えて改変することも自由です。

介護過程の中で，考えることと記述することの２つで難しい箇所は「アセスメント」です。特に，分析・解釈，統合・判断の箇所は難しいといえます。しかし，「どうしてそう思うか」の判断過程や判断根拠を検討し，それを記述できれば，たとえ１行の内容であっても介護過程を学んだ成果の第一歩であると考えます。第一歩をさらに進めるのは，利用者ひとりひとりの生活に目を向ける関心と，思考し記述する苦労を続けることだと思います。

最後に，利用者との関係形成や自己覚知は，介護過程を展開する人に属することです。こうしたことはアセスメントシートなどに記述されるわけではありませんが，とても大切な視点です。また，アセスメントの理論的枠組みの検討，教育方法の検討は，今後も継続する課題です。学習者の学びと実践の蓄積が今後の課題の改善につながることを願っています。

2021 年 2 月

著者を代表して　柊崎京子

目　次

第１章　はじめて学ぶ介護過程

1. 介護過程とは …… 1

1　ふだんの生活でしている計画と行動 …… 1

2　介護過程とは …… 1

3　介護福祉士養成課程における「介護過程」の学習内容 …… 3

2. 介護過程を学ぶための準備 …… 4

1　他者理解と人間関係の形成 …… 4

◆演習１：他者を知る・自分を知る …… 5

◆演習２：傾聴と共感ー思いをくみ取り相手を理解するー …… 6

2　自分自身の生活の理解 …… 8

◆演習３：ある日の私の生活 …… 8

3　生きてきた時代，地域による違いの理解 …… 9

◆演習４：生きてきた時代の理解 …… 9

◆演習５：地域による違いの理解 …… 9

4　他科目で学ぶ学習の確認 …… 9

◆演習６：他科目で学ぶ学習の確認 …… 10

3. 観　　察 …… 11

1　観察とは …… 11

2　五感を使った観察 …… 12

3　観察の演習 …… 12

◆演習７：目でみる …… 13

◆演習８：五感を使う …… 13

4　観察は必要な情報を収集するための意図的な行為 …… 15

5　観察の留意点 …… 15

4. 情　　報 …… 16

1　情報とは …… 16

2　情報収集の留意点 …… 17

5. 問題解決思考 …… 20

1　問題解決思考とは …… 20

2　演習の進め方 …… 21

3　演　　習 …… 21

◆演習９：問題解決思考を体験する …… 23

6. 短い事例をもとに問題解決思考でアセスメントを体験する …… 26

1　事　　例 …… 26

2　演　　習 …… 27

◆演習 10：情報を書き出してみる …… 28
◆演習 11：表に記入して情報を分析・解釈する …… 28
◆演習 12：どのような支援が必要かを考えるためのまとめ …… 29
◆演習 13：課題を文章化する …… 30

第２章　介護過程を学ぶための基礎

1. 「個別ケア」,「チームアプローチ」の方法としての介護過程 …… 31
1　ケアマネジメントと介護過程の関係 …… 31
2　介護過程の定義と意義 …… 35
3　介護過程が実践の「方法」であることの意味 …… 36
4　「方法」としての特性 …… 38
2. ICF の生活機能モデルと介護過程 …… 40
1　ICF（国際生活機能分類） …… 40
2　ICF の構成要素 …… 40
3　活動と参加 …… 42
4　生活機能モデル …… 44
5　ICF をアセスメントに活かすとは …… 46
6　ストレングスに着目した支援 …… 50

第３章　介護過程展開の視点

1. 介護過程の構成要素 …… 51
2. 介護過程における「アセスメント」の概要 …… 52
1　アセスメントの目的 …… 52
2　アセスメントのプロセス …… 52
3. 利用者のニーズ，意思・意向の尊重は介護過程の原点 …… 53
4. 生活の基盤である日々の日常生活の支援 …… 53
5. 介護過程展開の視点 …… 54
1　『実践の目的』,『実践の基盤』 …… 54
2　『実践の基盤』は『実践の目的』を目指す中で活かす …… 56

第４章　介護過程の展開

1. 情報収集 …… 57
1　本書で使用する情報収集シートの項目 …… 58
2　情報収集シートの特徴 …… 58
3　ICF の構成要素と情報 …… 59
4　情報の意味や情報の内容 …… 59
Ⅰ．生活・くらし　61
Ⅱ．生活・人生の個人的背景　62
Ⅲ．環　境　63
Ⅳ．健康・心身の状況　64

Ⅴ．コミュニケーションと意思決定　65
Ⅵ．日常生活行為　66
Ⅶ．設定項目以外の情報　67
2. アセスメント …… 68
1　本書におけるアセスメントシートの構成 …… 68
2　現在の生活の全体像 …… 68
3　情報の分析・解釈 …… 70
4　統合・判断 …… 74
5　生活課題の抽出 …… 75
3. 介護計画 …… 76
1　介護計画 …… 76
2　目　　標 …… 77
3　期　　限 …… 78
4　具体的計画 …… 79
4. 実施と評価 …… 80
1　実　　施 …… 80
2　評　　価 …… 82
3　カンファレンス …… 83

第５章　事例による介護過程の学習
1. 事例紹介 …… 85
2. 介護過程の展開 …… 89
◆演習 14：情報収集シートの「1．過ごし方」の欄に情報を記入する …… 89
◆演習 15：情報を整理する …… 89
◆演習 16：情報収集シートから生活の全体像を記述する …… 90
◆演習 17：「注目する情報」を選ぶ …… 90
◆演習 18：「注目する情報」に関係する情報を，情報収集シートから探す …… 91
◆演習 19：「統合・判断」を文章化する …… 93
◆演習 20：「具体的計画」をグループでロールプレイし，実施・評価について学ぶ …… 94

第６章　さらなる学びに向けて
1. 介護過程の展開を事例研究としてまとめる …… 96
1　事例研究の意義 …… 96
2　倫理的配慮 …… 98
3　テーマ（論題）と目的の設定 …… 99
4　文献の活用 …… 101
5　書き方のルール …… 102

6　論文の基本構成 …… 106
7　論文を書く …… 106
8　データの保存 …… 111
2.　介護過程に活用できる理論・モデル …… 112
1　理論とは …… 112
2　介護過程に活用できる主な理論・モデル …… 112

付章　演習事例

演習事例 1　不安を感じながらも，自宅生活を継続したいと望む K さん … 124
1　事例紹介 …… 124
2　介護過程の展開へ向けて …… 129
演習事例 2　長年の施設生活から地域での暮らしを選択して生活する脳性マヒの L さん …… 130
1　事例紹介 …… 130
2　介護過程の展開へ向けて …… 134
演習事例 3　医療的ケアを受けながら希望をもち自宅で生活する ALS の M さん …… 136
1　事例紹介 …… 136
2　介護過程の展開へ向けて …… 139
演習事例 4　居室で過ごすことを好むレビー小体型認知症のある N さん …… 141
1　事例紹介 …… 141

演習資料

第 5 章　事例：J さんの資料 …… 148
付　章　事例 1：K さんの資料 …… 156
付　章　事例 2：L さんの資料 …… 158
付　章　事例 3：M さんの資料 …… 160

記録シートフォーム

Ⅰ　情報収集シート（1）～（3） …… 164
Ⅱ　アセスメントシート …… 170
Ⅲ　介護計画 …… 171
・ICF の生活機能モデルを使用した情報の整理フォーム …… 172

索　　引 …… 173

第1章

はじめて学ぶ介護過程

1. 介護過程とは

1 ふだんの生活でしている計画と行動

みなさんは日曜日をどう過ごしていますか。特に予定がないときは，「こんどの日曜日は何をしようか」とか，「どこかへ行こうか，誰と遊ぼうか，お金はどれくらい必要か」など，あれこれと考えることでしょう。

例えば，「日曜日に，友達と一緒においしいものを食べに行きたい」と考えた場合は，「友達を誘う」という行動を起こします。そして友達が食べに行くことに賛成であれば，「どこへ行くか，何を食べるか」を友達と話し合うかもしれません。そして，「A店のケーキがおいしいと聞いたから，そこに行こう」と決まった場合は，A店の営業時間や場所を調べたりします。A店に食べに行った後には，「おいしかった」とか，「この店を選んでよかった」，「もう1回この店で食べたい」など，A店を選んでよかったかどうかの感想を友達と話したりします。

このように私たちはいろいろなことを計画し，計画したことを実行に移して行動しています。「今日の夕食は何を食べようか」，「勉強をどうしようか」など，ふだんの生活は計画と実行の積み重ねで成り立っていると言えるほどです。

私たちがふだんしていることを介護過程にあてはめると，図1-1になります。

2 介護過程とは

介護過程（care process）は，「介護」と「過程」が合わさった用語です。簡単に言えば，「介護（care）」を行う「過程（process）」のことです。過程には，「物事を進める手順」，「物事が進み，ある結果に至るまでの道筋」と

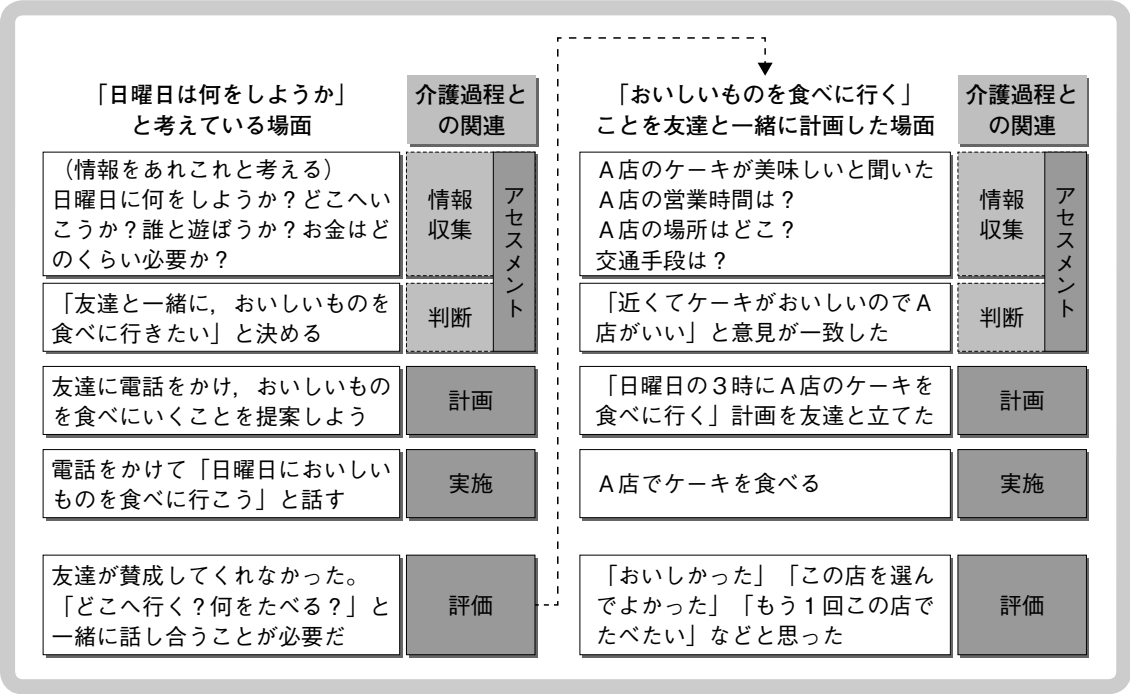


図 1-1 「日曜日は何をしようか」に対する思考と行動

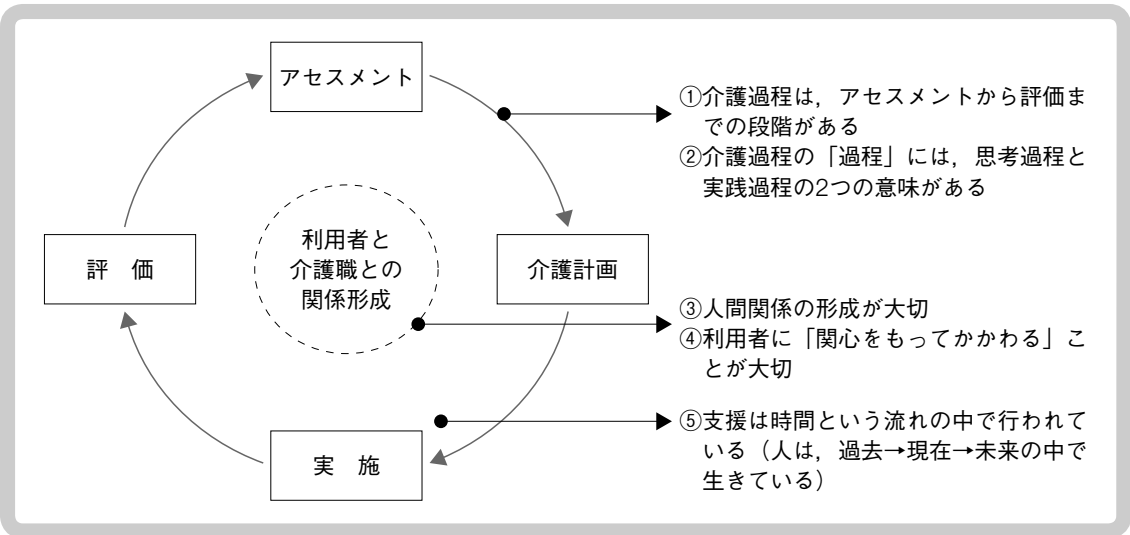


図 1-2　介護過程のモデル

出典）介護福祉教育研究会（2016）『楽しく学ぶ介護過程』改訂第３版，久美，43．を一部改変

いう意味があります。

介護過程の説明をするために図 1-2 に「介護過程のモデル」を示しました。図中の矢印の意味は，介護過程は①アセスメントから出発すること，②ア

セスメントから評価までの各構成要素を順に進めることを示しています。

介護過程の「過程（process）」には，思考する過程と，実践する過程の2つの意味があります。これについては第2章で述べます。

介護過程を進めるうえで最も大切なことは，利用者と介護職との関係形成です。そして介護職は，利用者に関心をもってかかわる姿勢が大切です。また，人は過去から現在，現在から未来へと続く時間の中で生きています。利用者へのかかわりや支援も，時間の流れの中で行われています。そのため，よいと思って行った支援が，今日は適切でも明日は適切でないことがあります。

以上を前提に，これから介護過程の学習を行います。

3 介護福祉士養成課程における「介護過程」の学習内容

介護福祉士養成課程（1年課程以上）において，介護過程の「教育内容のねらい」などは表1-1のとおりです。

介護過程は他科目で学習した知識や技術を活かして展開します。「人間と社会」や「介護の基本」で学んだ職業倫理，「こころとからだのしくみ」，「認知症の理解」，「障害の理解」，「生活支援技術」で学んだ内容，「コミュニケーション技術」で学んだ記録・記述の方法など，全てを活かします。

みなさんが介護過程の学習や介護過程を展開する（行う）ときには，身につけた知識や技術を総合して考えることが大切です。介護過程のベースとなるものは，これまでに学んだ知識・技術であり，職業倫理です。学習不足や未学習の内容があれば，それらを学ぶことで，より深い実践ができます。

表1-1　介護過程（150時間）の「ねらい」「教育に含むべき事項」「留意点」

教育内容のねらい	
本人の望む生活の実現に向けて，生活課題の分析を行い，根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。	
教育に含むべき事項	**留意点**
①介護過程の意義と基礎的理解	介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ，介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する内容とする。
②介護過程とチームアプローチ	介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性，チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する内容とする。
③介護過程の展開の理解	個別の事例を通じて，対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながる内容とする。

出典）日本介護福祉士養成施設協会（2019）『介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書―介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き―』，51.

介護職としての役割を発揮するため，介護福祉士には，利用者の尊厳を支える個別ケア，利用者等のニーズにあった個別ケアの実践が求められています。また，介護職チームの中でリーダーシップやフォロアーシップを発揮すること，チームをマネジメントすること，多職種連携によるチームアプローチの実践などが求められています。介護過程を学ぶことは，このような個別ケア，チームマネジメント，チームアプローチの内容・方法を学ぶことにつながります。

何度も繰り返して学ぶことで，だんだんと理解が深まります。考えをまとめることや文章化することを，あきらめずに取り組みましょう。少し理解できると，だんだん楽しくなります。そして，他者の意見を聞き，自分の意見を伝えながら，共に学んでいきましょう。

2. 介護過程を学ぶための準備

ここでは，介護過程を学習するための入り口として，他者理解と人間関係の形成，自分自身の生活の理解，生きてきた時代・地域による違いの理解，他科目で学ぶ学習の確認について，演習を通して理解していきます。

1　他者理解と人間関係の形成

1）他者を知る・自分を知る

私たちは，生まれてからこれまでに多くの人と人間関係を築いてきました。家族や親せき，友達，クラスメイト，クラブ活動の仲間，近所に住む人など，「わたし」と「あなた」が互いのことを理解し，それぞれの役割を担うことなどにより人間関係は成立します。

介護は「人」が「人」にかかわる行為です。それは，介護職が自ら働きかける能動的（自分から積極的に働きかけること）な姿勢を含みます。介護を必要とする利用者と介護職との出会いの多くは，利用者が利用するサービスを通して始まります。このことから，普段，みなさんが友人と築く人間関係と，利用者と介護職のあいだにおける人間関係は異なることが理解できます。

人は，一人として同じ人はいません。人間関係はお互いを知る中で形成されますが，人間関係の形成を通して互いの違いに気づくこともあります。ここでは，介護過程の展開は，「他者理解」と「自己理解」の両方が必要であることを考えていきます。

◆演習 1◆　他者を知る・自分を知る

① 下記の項目について，各自で記入しましょう（たくさん書いてもよい）。
② 記入できたら，グループで内容を発表しましょう。なぜ書いたのか，質問をしても OK です。
③ グループの中で，共通点や違いがあるかについて検討しましょう。

❶私が毎日すること	
❷私が夢中になっていること	
❸私がよく食べる定番料理	
❹私が嫌いな食べ物	
❺私がしてみたいこと	
❻私が他者に絶対されたくないこと	

＜演習のまとめ＞

① グループでの発表を通して，他者をどう理解しましたか。
② グループでの発表を通して，自分について，何か気づきましたか。

同じような意見が出ましたか，それとも違っていましたか。意外な答えや同じような答えなど，いろいろ出たかもしれません。答えの理由を聞くと，その人のことが何となくわかったかもしれません。いろいろな答えの中に，人それぞれの「生活」や「個性」があります。

グループでの発表を通して，他者や自分について，何か気づきましたか。介護過程を展開するうえで，他者に関心をもってかかわる姿勢をもつことはとても大切です。また，介護過程は「人」にかかわる行為を含みますので，自分の個性・能力・価値観，心理的傾向や対人傾向などが反映されやすい側面があります。他者を知ることと同じくらい，自分自身を知ることが大切です。

介護過程を展開するためには人間関係の形成が大切です。人間関係を形成するためには，他者理解とともに，自己理解が求められます。そのうえで，人間関係を形成するためのコミュニケーション技術や，共感する能力が求められます。

■ 2）相手の気持ちや状況を理解する

私たちはコミュニケーションを通して情報や感情，意思などを伝達しています。例えば，2 人でコミュニケーションをとっていた場合，2 人の間で交換される情報や感情などは同じ場合もあれば，違う場合もあります。相手が発信したことに対して，自分が受け止めたことが同じであるとは限りません。